インスリン治療の種類

インスリン注射療法

インスリン注射（頻回注射）

1日に4～5回、
自分でインスリン
注射を行う療法

インスリンポンプ療法

パッチ式インスリンポンプ

からだにインスリン
の入ったポンプを
貼り付け、リモコンで
操作する療法

チューブタイプのインスリンポンプ

注入部位とチューブで
つながったポンプを
装着し、ポンプの
コントローラーで
操作する療法

SAP療法

CGM（持続グルコース測定）機能付きのインスリンポンプ

パーソナルCGM機能を
搭載した
インスリンポンプ療法

インスリンポンプ療法には、
それぞれメリット・デメリットがありますので、
ご自身の生活スタイルを考え、
主治医の先生にご相談ください。

医療機関名

TERUMO
テルモ株式会社
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1
www.terumo.co.jp

記載されている社名、各種名称は、
テルモ株式会社および
各社の商標、または登録商標です。
©テルモ株式会社 2021年3月
21T074-1KL8MM2103

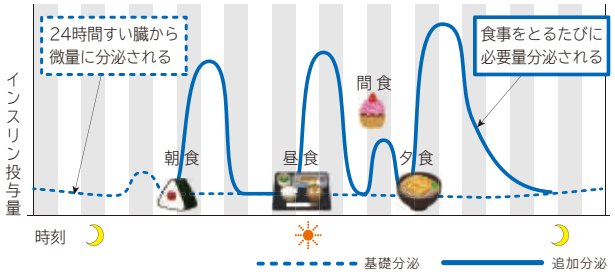
医療従事者のみなさまへ（患者さん説明用小冊子）

「インスリンポンプ療法」

監修
東京女子医科大学 糖尿病・代謝内科 准教授 三浦 順之助
東京女子医科大学病院 糖尿病看護認定看護師 土田 由紀子

生理的なインスリン分泌

健康な方のインスリン分泌イメージ



1日中、微量ながら一定量分泌される**「基礎分泌」**と、食事などによる血糖値の上昇に応じて分泌される**「追加分泌」**があります。

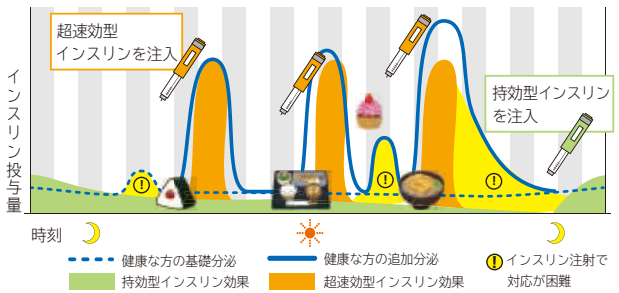
インスリン注射（頻回注射）療法

(MDI:Multiple daily injections)

ペン型注入器で食前など1日数回インスリンを注射します。

インスリンの使い分けで
生理的なインスリン分泌パターンに近づけます。

インスリン注射療法の一例（頻回注射）



「基礎分泌」を**「特効型溶解インスリン」**で1日1回、**「追加分泌」**は**「超速効型インスリン」**を1日3回組み合わせて、1日4～5回注射する方法です。

使用するインスリン	● 持効型溶解インスリン ● 超速効型インスリン など

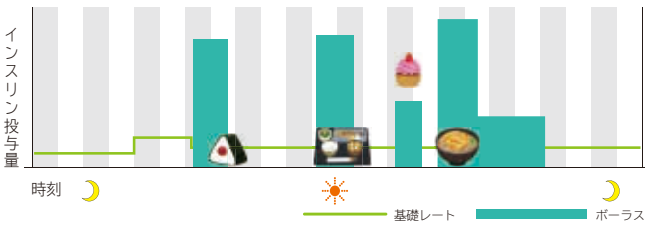
インスリンポンプ療法

(CSII: Continuous Subcutaneous Insulin Infusion)

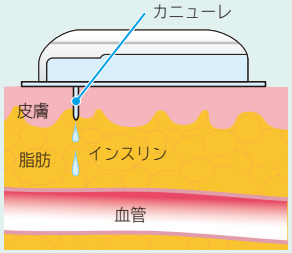
腹部などに小型のポンプを装着し、インスリンを持続注入します。

皮下に留置した細くやわらかいプラスチック針（カニューレ）を通じて持続的にインスリンを注入します。プログラム設定により、超速効型または速効型インスリンを少しずつ投与することで、生理的なインスリン分泌に近いインスリン投与が可能です。インスリンポンプには、パッチ式タイプ（チューブなし）とチューブタイプがあります。

インスリンポンプの投与イメージ



インスリンポンプでは、**「基礎分泌」**にあたる1時間あたりのインスリン量を**「基礎レート」**、食事や血糖値の上昇に対する**「追加分泌」**にあたるインスリン量を**「ボーラス」**と呼びます。基礎レートはプログラムにより持続注入されます。各食前のボーラス投与はリモコンで行うことができます。



一定量が少量ずつ皮下に投与されます。

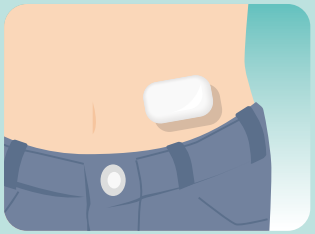
※パッチ式タイプの投与イメージ

- ポンプにより自動注入されます。
- あらかじめ医師と相談した内容に基づいて、注入量はいつでも調整変更できます。
- カニューレ留置のための針の穿刺は2～3日に1回です。

使用するインスリン	● 超速効型または速効型インスリン

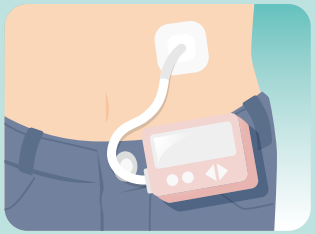
パッチ式タイプ

からだにインスリンの入ったポンプを貼り、リモコンを操作します。



チューブタイプ

ポンプと貼り付け部にチューブがあり、ポンプ本体で操作します。



ポケットや
ベルトに固定します

インスリンポンプ使用時は1日4回以上の血糖自己測定（SMBG）により血糖値の把握が必要です。また、緊急時に備え、インスリンポンプ以外のインスリンペン型注入器などの携帯が必要です。